

〈令和2年度 学校評価アンケートまとめ〉

本校では、今年度の教育活動や目指す学校・生徒・保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、生徒17項目、保護者17項目、教員20項目、地域関係者11項目について、【ア：とてもそう思う、イ：どちらかといえばそう思う、ウ：どちらかといえばそう思わない、エ：そう思わない】の4段階で11月～12月に評価を行いました。結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え、肯定的評価の割合に注目し、

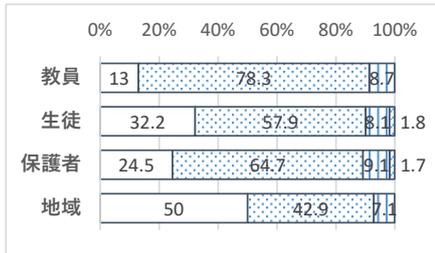
- ・ 80%以上の項目を A（目標が充分達成できている）
- ・ 80%未満55%以上の項目を B（概ね達成できている）
- ・ 55%未満40%以上の項目を C（達成がやや不十分である）
- ・ 40%未満の項目を D（達成が不十分である）として表記しています。

評価結果を学校関係者評価委員会において説明し意見を聴取するとともに校内企画調整委員会、各分掌・学年部会で分析を行い、評価A・Bの項目については次年度も継続した取り組みを進め、評価C・Dの項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでいきます。

凡例：
 ア とてもそう思う
 イ どちらかといえばそう思う
 ウ どちらかといえばそう思わない
 エ そう思わない

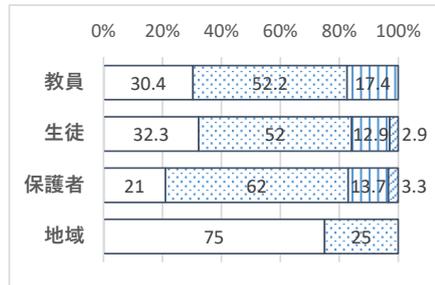
※単位は%（四捨五入して整数値で表記されているところもあります。）
 達成度（ ）内は昨年度の結果

1 思いやりの心や相手の身になって行動できる。



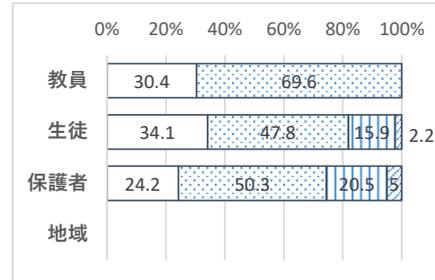
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	13	78	8.7	0	A (A)	今年度も教員、生徒、保護者、地域からの肯定的評価が多かった。特に教員自身の肯定的評価が増えており、我々自身もこれまでの学校全体の取組に成果を感じているものと思われる。今後も継続的に全ての教育活動を通じて、相手の身になって考え、思いやりのある行動がとれる生徒の育成に努めていきたい。
生徒	32	58	8.1	1.8	A (A)	
保護者	25	65	9.1	1.7	A (A)	
地域	50	43	7.1	0	A (A)	

2 生徒会活動・学校行事などを通して、集団としての自主性や責任感を伸長している。



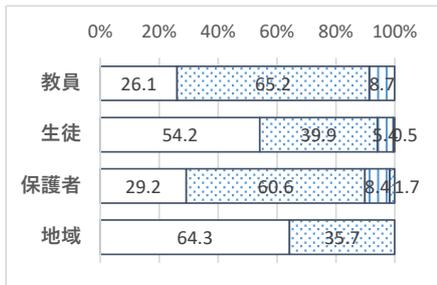
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	30	52	17	0	A (A)	今年度は、新型コロナウイルスのために、生徒会活動、学校行事が従来よりも大幅に制限される中、できる活動を行ったが、その成果は十分にあったと考えられる。生徒も自身の成長を時間していることがわかる。また、地域からの評価が高いのは、この状況に中での学校の取組が評価されていると思われる。
生徒	32	52	13	2.9	A (B)	
保護者	21	62	14	3.3	A (B)	
地域	75	25	0	0	A (A)	

3 時間を守り、話を聞く態度を素早く整えられる。



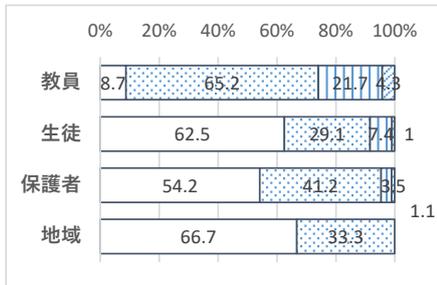
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	30	70	0	0	A (A)	概ね達成できているが、教員・生徒と比べて保護者の評価がやや低めである。これは、家庭生活への反映がまだ十分でなく、認識に差が出たためと考えられる。時間を守り、話を聞く態度を素早く調えることは、望ましい日常習慣の基本であるため、より一層、学校の教育活動全体を通して指導し、日常生活での実践に結び付けたい。
生徒	34	48	16	2.2	A (A)	
保護者	24	50	21	5	B (A)	
地域						

4 場に応じた挨拶・言葉遣い・返事ができる。



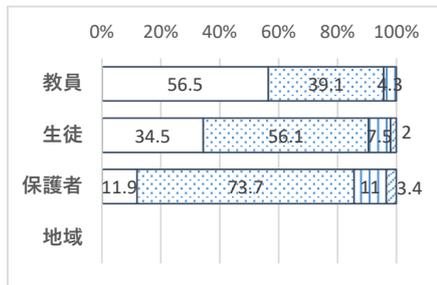
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	26	65	8.7	0	A (A)	昨年度の同項目に比べて、教員、生徒、保護者、地域とも肯定的評価が向上している。これは、昨年の結果を踏まえて、その場にふさわしい言葉遣い、挨拶などの取組を日常的、継続的に行った結果だと思われる。また、生徒会での挨拶運動なども生徒自身の気持ちの向上に役立っていると感じる。今後もこの取組を継続していく。
生徒	54	40	5.4	0.5	A (A)	
保護者	29	61	8.4	1.7	A (A)	
地域	64	36	0	0	A (A)	

5 場に応じた服装として、バッチの着用、式服・体育着のきちんとした着こなしができる。



	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	8.7	65	22	4.3	B (B)	教員と生徒・保護者・地域の評価にかなりの差が見られる。これは、昨年も同様な傾向で、両者の視点の違いによるものと考えられる。多くの生徒は場に応じた服装、バッチ着用ができていたが、教員側は、少数の不十分な生徒の印象が強く残っている。従来からの指導の継続とともに生徒自ら意識して気づけるように指導する必要がある。
生徒	63	29	7.4	1	A (A)	
保護者	54	41	3.5	1.1	A (A)	
地域	67	33	0	0	A (A)	

6 ねらいが明確な授業が行われている。



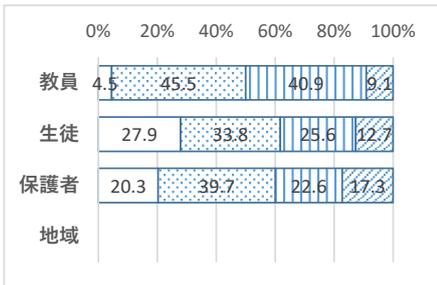
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	57	39	4.3	0	A	肯定的な評価が多い。しかしながら、生徒の回答で「とてもそう思う」より「どちらかと言えばそう思う」の割合が高いので、「ねらい」が明確になるよう、授業内での提示の仕方を考える必要がある。
生徒	35	56	7.5	2	A	
保護者	12	74	11	3.4	A	
地域						

7 思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫がされている。



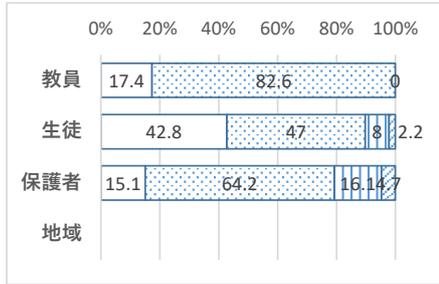
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	22	65	13	0	A (A)	概ね良好な結果となっている。次年度から実施される新学習指導要領に向けて、教科内での研修を実施し、指導方法をさらに検討する必要がある。学力調査や生徒授業アンケートを活用しながら、授業改善に取り組んでいく。
生徒	37	53	7.3	3	A (A)	
保護者	13	73	12	2.8	A (B)	
地域						

8 家庭学習の習慣が形成されている。



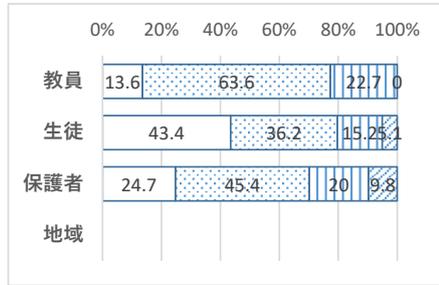
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	4.5	46	41	9.1	C (D)	家庭学習が身に付いていない生徒が約4割と高い数値となっている。昨年度と比較し、改善傾向にあるので、配備されたタブレットパソコン、校内全体で取り組んでいる「自学自習ノート」を活用し、家庭学習の習慣が身につくよう指導していく。
生徒	28	34	26	13	B (C)	
保護者	20	40	23	17	B (C)	
地域						

9 補充指導や基礎・基本の確実な定着を図られている。



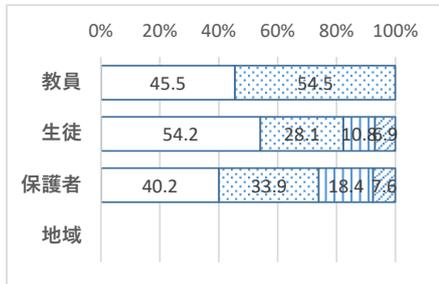
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	17	83	0	0	A (B)	補充指導は教科ごとに設定しているが、部活動や習い事と日程が重なり、参加できない生徒もいる。保護者・教員からは否定的な回答の割合が多いことから、取組の充実を発信を進める。タブレットパソコンを活用した取組も検討していく。また、基礎基本の定着を図るための授業改善を実施する。
生徒	43	47	8	2.2	A (A)	
保護者	15	64	16	4.7	B (B)	
地域						

10 望ましい生活習慣が定着している。



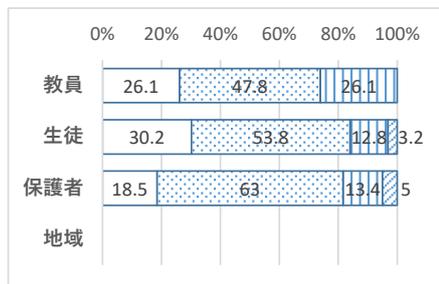
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	14	64	23	0	B	三者とも達成度がBであった。特に今年度は自宅で生活する時間が長く、自律した生活を送ることができなかった生徒は多くいたと思われる。「早起き早寝」「スマホ等の使用の仕方」「自主的な家庭学習」など自分で考え実践できるような生活様式をサポートしなければならない。
生徒	43	36	15	5.1	B	
保護者	25	45	20	9.8	B	
地域						

11 基礎的な体力や運動に親しむ態度が向上している。



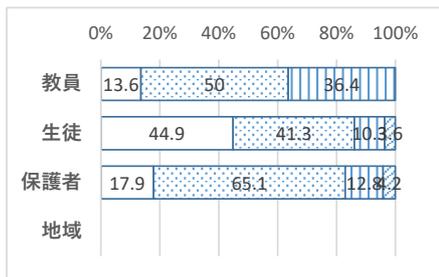
	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	46	55	0	0	A (A)	日常の保健体育科の授業や運動部活動など意欲的、積極的に活動する生徒は多く、評価に反映されている。学校で活動している分、家庭での運動習慣は少なくなることが推測され、保護者との評価の差の要因と考える。否定的な評価をしている生徒がいるということを忘れずに、個人内で少しでも向上できるよう幅広い指導を展開していく。
生徒	54	28	11	6.9	A (B)	
保護者	40	34	18	7.6	B (B)	
地域						

12 障害者スポーツの体験・理解が深まっている。



	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	26	48	26	0	B (A)	講演会や体験会、発信を十分に行うことができずに低評価となった。障害者だけではなく、人権意識の向上については常に指導をしている。引き続き、違いを認められるような教育活動を継続していく。
生徒	30	54	13	3.2	A (A)	
保護者	19	63	13	5	A (A)	
地域						

13 自ら危険を回避する能力が向上している。



	ア	イ	ウ	エ	達成度	課題・改善策
教員	14	50	36	0	B	保護者・教員の評価と生徒の評価に差が見られた。大人としてトラブルや問題が起こった際に指導を行う立場として、もっと危険を回避する能力を高めて欲しいという思いの表れだと考えられる。災害時だけでなく日常生活においても、常に善悪の判断を正しくつけられるよう生徒たちの規範意識を高めていきたい。
生徒	45	41	10	3.6	A	
保護者	18	65	13	4.2	A	
地域						

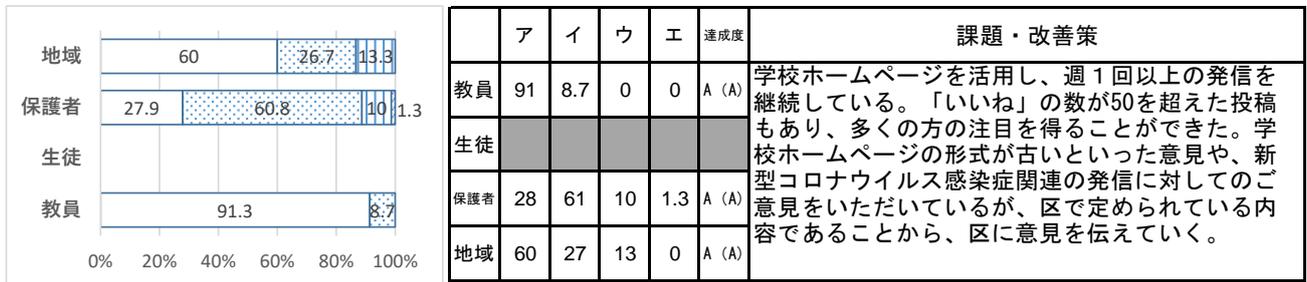
14 支援の必要な生徒に対し、関係機関と協力しながら計画的に対応している。



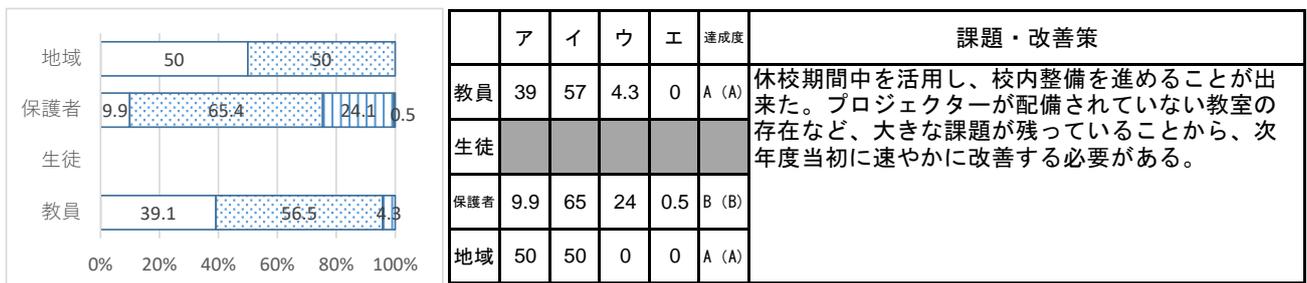
15 青少年赤十字活動を理解し、ボランティア活動・体験などを行い、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成されている。



16 学校ホームページや学年だより等による広報が適切に行われている。



17 ユニバーサルデザインに配慮した校内掲示物や教室環境の整備が行われている。



【学校評価回答者からの主なご意見（概要）】

ご意見	学校より
生徒が先生を評価しても良いのではないか。	年2回、授業評価を実施しています。評価の低い教員には、管理職が指導・助言を行います。
感染症の情報をもっと詳細に発信してほしい。	発信内容は区の方針に従っております。今後、陽性者が発生した場合、発信を定時に行うなどの改善を行います。
学校ホームページが見にくい。もっと日常の情報がほしい。	ホームページの形式については、区に意見として報告します。どのような情報をご希望か、担任等を通じてご意見をうかがえればありがたいです。
紙の配布物が多い。親の手元に届いていないものも多い。	学校だより・学年だよりなど、学校ホームページでご覧いただけます。タブレット端末の貸与に伴い、配布物のデータ配信を検討中です。
休校中も課題があり、自分で学ぶ経験になった。	今後もタブレットや自学自習ノートの活用を進めます。